



## 6 閉会

### <審議内容>

#### 1 開会

足立座長：令和6年度 第2回 光輝学園コミュニティ・スクール推進会議を開会します。会議を進行するに当たり書記を 松代小学校 尾崎委員 をお願いしたいと思います。

→承認

#### 2 挨拶

足立座長：学園や地域の未来を考えながら、話し合いながら、この時間をもてることは大変有意義であると考えます。この時間を存分に有効活用していきたいので、皆様どうぞよろしく願いいたします。

四位学園長：本日の熟議は、次年度の取組に大きく関わってくると考えます。「光輝学園は一つ」ということを合言葉に、実りある熟議になることを期待しています。

#### 3 前回の議事の確認

足立座長：今回は、①各校のグランドデザインの説明 ②熟議「地域や学校での児童・生徒の様子について」話し合いを深めました。

#### 4 協議

##### (1) 学校評価について

【光輝学園の学校評価アンケートの結果について情報共有】

##### ① 葛城小

- ・「学校が楽しい」「友達と仲良く生活している」「学校行事や体験活動は自分のためになると思う」の項目で児童、保護者ともに肯定的回答率が高かった。
- ・「あいさつ」や「9年間の学び」の項目は肯定的回答率が低く、今後改善に向けて、手立て・工夫を講じる必要がある。

##### ② 手代木南小

- ・「先生は、自分の話をよく聞いてくれる」「学校行事や体験活動は自分のためになると思う」の項目で、児童、保護者ともに肯定的回答率が非常に高かった。
- ・「学校は安全で安心できる場所」や「あいさつ」については、児童と保護者の回答の数値に若干差があった。今後、コミュニティ・スクールという観点でも課題の改善を検討していくことが必要と考える。

##### ③ 松代小

- ・「学校行事や体験活動」の項目は、児童、保護者ともに肯定的回答率が高く、また、保護者への質問「学校の様子をお便りやホームページ等で伝えている」も肯定的回答率が高かった。
- ・「あいさつ」「9年間の学び」は保護者、「規則正しい生活」は児童の肯定的回答率が低く、本校の課題と捉えた。

##### ④ 手代木中

- ・「授業に進んで取り組む」「お子さんは学習に進んで取り組んでいる」の項目で、生徒の肯定的回答率が高く、保護者の肯定的回答率も昨年度より伸びた。
- ・「人に対して思いやりをもって接している」の項目で、生徒の肯定的回答率が高かった。
- ・「家庭と連絡を密にとっている」「9年間の学び」の回答率が低く、今後改善を要する課題である。

(2) 熟議「コミュニティ・スクールとして光輝学園が育てていきたい児童生徒～次年度の手立てについて～」

**【熟議の進行について】**

ファシリテーター内藤委員：最初に学校評価についての感想や意見を出し、次に学校評価から考える育てたい児童生徒像を話し合い、最後に次年度に「学園・学校」「家庭」「地域」でできる具体的な手立てを出していただき、グループでの熟議の結果を発表して共有してもらいます。それではよろしくお願ひいたします。

**【学校グループごとに話し合う】**

- ①葛城小 ②手代木南小 ③松代小 ④手代木中

**【各グループで協議されたことの発表】**

① 葛城小

- ・「あいさつ」「コミュニケーション」を活性化できるように、交流・体験活動を工夫していけるとよい。
- ・体験活動に前向きに取り組める子どもたちなので、経験・体験から夢や目標をもてるように、体験活動を工夫していきたい。
- ・様々な人材がいる地域なので、その人材を学園内で互いに共有し、ゲストティーチャーやボランティアとして活用できるようにしたい。

② 手代木南小

- ・「人と関わることの好きな子」「いろいろな満足を認められる子」「小さなことでも『助けて』と言える子」「子どもらしい、いきいきとした子」になってほしい。
- ・学校では、教員が忙しすぎる状況であり、教員不足を感じる。教員が子どもと向き合う時間を維持していくために、学校がやることと家庭や地域でできることを棲み分ける必要がある。
- ・家庭では、ゆとりをもって子どもの小さな変化を見逃さず、自分のことにも地域のことに興味を持てるようにしていく。
- ・地域では、さまざまな世代が交わる場所づくりや学校の休み時間に子どもたちに関わってもらえる機会づくり、子どもが地域の人に気軽に相談できるような関係づくり、多様な人材が学校を支えていく仕組みづくりができるとうい。

③松代小

- ・育てたい児童は、「あいさつができる児童」「思いやりのある児童」「自分で考えて行動できる児童」。

- ・学校では、異学年交流や縦割り活動を増やし、取組を情報発信していく。
- ・家庭では、発信されたものをどのように受け取っていくか。そして、学校に関心を持ち、学校とのコミュニケーション、関係づくりを大事にしていく。
- ・地域の方には、ホームページなどで学校の様子を見ていただくとともに、温かく見守りや声掛けをしていただき、安心・安全につながっていけるとよい。

#### ④手代木中

- ・中学校では、比較的あいさつができています。部活動の存在は大きいと感じている。
- ・次年度は、あいさつ運動を夏休み前に行い、年2回学園でのあいさつ運動を実施する。
- ・人と人との交流が少ない世の中であるので、交流を図る機会を多くしていきたい。
- ・体験活動等を通して他者とのコミュニケーションを図り、実社会に出た時の「社会とのギャップ」をうめていくことも、中学生として大切な経験である。

#### 【発表のまとめ】

内藤委員：学校としては、情報発信や体験的な活動をしていく。家庭では、コミュニケーションや交流の機会をもつ。地域では、人材を共有していく。そうして、人と人との交流がやはり大事であると考えます。来年度、できることを学校・家庭・地域で考えていきたい。

#### 5 その他

##### ①事務局代表から

四位学園長：来年度はコミュニティ・スクール協議会として新たなスタートを切ることになります。1年間会議の運営に御協力いただき、ありがとうございました。

##### ②生涯学習推進課

村上社教主事：今年度、1年間の活動を振り返るとともに、今後のコミュニティ・スクール協議会のより良い在り方について御意見を頂戴したいと思います。

1年間大変お世話になりました。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

#### 6 閉会

足立座長：本日の会議の様子を、つくば市教育委員会ホームページにて写真とともに掲載させていただきたいと思っております。

以上をもちまして、令和6年度 第2回光輝学園コミュニティ・スクール推進会議を閉会いたします。

# 令和6年度 第2回 光輝学園コミュニティ・スクール推進会議

日 時：令和 7年 2月 6日(木)

14：30～

場 所：手代木中学校 多目的室

## 次 第

1 開 会

2 挨 拶

3 前回の議事の確認

4 協 議

(1) 学校評価について

(2) 熟 議

【テーマ】

「コミュニティ・スクールとして光輝学園が育てていきたい児童生徒～次年度の手立てについて～」

5 その他

6 閉 会

## 会 議 録

会議の名称		令和6年度第1回光輝学園コミュニティ・スクール推進会議		
開催日時		令和6年6月10日（月）開会 14:30 閉会 16:30		
開催場所		つくば市立手代木中学校多目的室		
事務局（担当課）		教育局生涯学習推進課		
出席者	委員	近藤大雄、足立透、吉岡良治、清岡翔吾、宮腰清一 野口恵実、齋均、木下未佳、須藤路子、田中徹 手代木中学校：校長 四位悟、教頭 内藤雅巳 教務主任 内田尚樹 葛城小学校：校長 栗山良一、教頭 菅沼祐子 教務主任 村松薫 手代木南小学校：校長 江尻佳之 松代小学校：校長 立川英昭、教頭 尾崎朝子 教務主任 浅尾信也		
	その他			
	事務局	教育局次長：久保田靖彦 生涯学習推進課参事：山口健次 生涯学習推進課課長補佐：瓜阪恵理名 生涯学習推進課係長：飯島 遊 社会教育主事：村上和宏 地域連携教育指導員：酒井和宏		
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	0人
非公開の場合はその理由				
議題		1 学校運営の基本方針について 2 熟議「地域や学校での児童・生徒の様子について」 3 その他		

会議録署名人		確定年月日	年	月	日
会議次第	1 開会 2 選任通知書交付 3 教育長挨拶 4 説明事項 つくば市のコミュニティ・スクールについて 5 座長・副座長の選出 6 協議 (1) 学校運営の基本方針について (2) 熟議「地域や学校での児童・生徒の様子について」 (3) その他 コミュニティ・スクール推進会議の今後の予定について 7 閉会				

<p>&lt;審議内容&gt;</p> <p>1 開会</p> <p>事務局：ただ今から、令和6年度 第1回 光輝学園コミュニティ・スクール推進会議を開会いたします。</p> <p>はじめに、会議を進行するに当たり書記を決めたいと思います。事務局案として尾崎先生をお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。</p> <p>参加委員：お願いします。</p> <p>事務局：お引き受けくださりありがとうございます。よろしくお願いします。</p> <p>2 選任通知書交付、</p> <p>事務局：始めに「選任通知書」の交付をいたします。通知書の交付は五十音順で代表者1名とさせていただきます。</p> <p>(「選任通知書」を足立委員に交付)</p> <p>ありがとうございました。お席にお戻りください。</p> <p>この推進会議は、協議会を設置するまでのおおむね1年間を予定しています。また、皆様の選任通知書については、机の上にございますので御確認ください。委員の皆様の自己紹介に関しては、この後お時間を取らせていただいております。御了承ください</p> <p>3 挨拶</p> <p>・森田教育長より (久保田次長代読)</p> <p>「皆さんこんにちは。教育長の森田でございます。</p> <p>本日はお忙しい中、第1回光輝学園コミュニティ・スクール推進会議に参加していただきありがとうございます。また、委員の皆様におかれましては当推進会議の委員を快くお引き受け頂き、深く御礼申し上げます。さて、近年の急激な社会の変化に伴い、子どもたちを取り巻く環境や学校が抱える課題は複雑化・多様化している状況があり、学校と地域の連携・協働の重要性が指摘されています。皆様にお配りしたつくば市教育</p>
--

大綱においても、「保護者・学校・地域・行政が協力し、社会全体で子ども  
の育ちの場を支える。」ことが、今必要なこととされています。

こうした背景を踏まえ、つくば市では、「コミュニティ・スクール」を導入  
していくこととしました。「コミュニティ・スクール」は、学校と地域、  
保護者がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映することで、  
一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支える「地域とともにあ  
る学校づくり」を進めるための仕組みです。また、学校を核とした交流  
を通して、地域の活性化を期待することもできます。

つくば市では、令和4年度に吾妻学園をモデル地域として先行的にコミ  
ュニティ・スクールを導入し、昨年度は8学園、今年度は新たに6学園  
で導入する計画です。その中で見えてきた課題としては、この仕組みを  
いかに地域に周知し、市民の方々の理解を得ていくかにあると思ってい  
ます。そのため、教育局では、出前講座のメニューを新設するなど、「コ  
ミュニティ・スクール」の周知に努めているところです。

光輝学園においては、本年度よりコミュニティ・スクールの導入が始ま  
ります。皆様には、それぞれの立場から、子どもたちの未来のために何  
ができるか、意見を出し合っていただければと考えています。つくば市  
の教育のさらなる充実に向け、どうぞ御協力をよろしくお願いいたしま  
す。

#### 4 説明事項

##### 【つくば市のコミュニティ・スクールについて（村上社会教育主事）】

事務局：社会教育主事の村上より「つくば市コミュニティ・スクールについて  
御説明させていただきます。

事務局：生涯学習推進課社会教育主事村上と申します。よろしくお願いいたし  
ます。わたくしのほうからは、

- 1 つくば市の教育が目指すもの
- 2 コミュニティ・スクールとは
- 3 つくば市で進めるコミュニティ・スクールとは

について御説明いたします。

まず、つくば市の教育が目指すものについて御説明いたします

配布されている教育大綱の冊子を手にとっていただき、1ページをお開きくだ  
さい。つくば市教育大綱では、一人ひとりが幸せな人生を送る、ことを最上位  
の目標に設定しています。次に7ページをお開きください。いま必要なこと  
の中に、保護者・学校・地域・行政が協力し、社会全体で子どもたちの育ちの場を  
支えることを位置づけています。

教育大綱に基づいたコミュニティ・スクールの導入をすることにより、今後  
地域の多くの人々が学校づくりに参画し、地域と一体となり、地域とともにある  
学校づくりを進めていきたいと考えています。つくば市の学校教育を所管して  
いる学び推進課からは、「学び推進方針」を学校に示しています。みんなが幸せ  
を実感できる学園・学校・幼稚園にするために、今年度特に意識していること

は、子どもたちの「自己決定」ができる環境を整えていくことです。また、学び推進課では「伴走から自走というスローガン」のもと、各学校が生き生きと自走していけるように日々関わっています。

続いて、コミュニティ・スクールについて御説明いたします。具体的にコミュニティ・スクールとはどのようなものを御説明いたします。コミュニティ・スクールとは、一言で言いますと地域とともに子どもを育む学校と言えます。コミュニティ・スクールのコミュニティは地域住民・保護者・学校であり、それらが、力を合わせて子どもたちの成長を支えていく学校のことをコミュニティ・スクールと呼んでいます。もっと踏み込んだ話をさせていただきますと、つくば市ではコミュニティ・スクール協議会という話し合いの場を設置している学校をコミュニティ・スクールと呼んでいます。

光輝学園は今年度、コミュニティ・スクール推進会議とって準備段階の会議を実施することになっています。来年度は協議会とって、法に位置付けられたコミュニティ・スクールの本格設置となります。

スライドでお示ししているのが、コミュニティ・スクール協議会の様子です。右上、校長先生が学校運営の基本方針、いわゆるグランドデザインの説明をしています。中段、下段の写真、熟議を行っています。

さて、それではなぜコミュニティ・スクールが必要なのでしょう。

現在、学校では、「いじめ、不登校」、「教員の業務量増加」、地域では、「地域社会における支え合いやつながりの希薄化」など、様々な課題が挙げられます。また、新学習指導要領では、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という理念を学校と社会が共有することが大切であると書かれています。これらのことから、学校と地域の課題を解決するために、学校と社会が目標を共有したり、地域と学校が連携して幅広い視点で子どもたちの成長を支えたりする必要があるのです。

それでは、具体的につくば市で進めるコミュニティ・スクールについて御説明いたします。つくば市コミュニティ・スクールには、スライドでお示ししている4つの機能があります。

①の機能として、学校運営の基本方針についての承認があります。学校運営協議会では第1回目に学園長・学校長が学校運営の基本方針、いわゆるグランドデザインの説明を行います。

その基本方針に対して委員の皆様から承認を行うことから学校運営協議会がスタートしていきます。ただし、学校運営の責任者は校長であり、学校運営協議会が校長の代わりに学校運営を決定・実施するものではありません。

②の機能としては、学校運営に意見を述べるということです。これから始まる学校運営協議会では、皆さんの様々な視点から御意見を頂ければと思っています。

③の機能として教職員の任用について意見を述べることができます。教職員の任用とは、学校とコミュニティ・スクール協議会が実現しようとする教育目標等に適った人材を求めることです。例えば、学年主任ができるリーダー性のある教員や外国語活動に力を入れたいので、授業力のある教員求めることなど

です。

④の機能として学校評価があります。委員の皆様と学校の課題について共有したり学校評価について話し合ったりということをしていきます。現在、光輝学園はコミュニティ・スクール推進会議という準備段階の会議となりますが、来年度には協議会という法に基づいた本格設置となります。委員の立場としても特別職の地方公務員となり、スライドにお示ししているような責任のある立場となっていくしますので、御協力をお願いいたします。

先ほど、「熟議」という言葉が出てきましたので、「熟議」について御説明いたします。「熟議」とは、どのような子どもを育てたいのか。何を実現したいのか。という目標・ビジョンを共有するために、「熟慮」と「議論」を重ねることを言います。ひとことで言うと「よくよく、話し合う」ということです。

熟議では、テーマに対して、委員それぞれの考えを付箋に記し、模造紙に貼り付けていくというスタイルが多いです。熟議に参加する委員の方が、必ず意見を会議に反映してほしいという意図のもとこのようなスタイルをとっています。

スライドでお示ししているのは、コミュニティ・スクールを自転車に例えたイメージ図です。自転車で例えるならば、協議会で話し合った内容が前輪及びハンドルとなり、「育てたい児童・生徒像」やコミュニティ・スクールの在り方などの方向性を決める役割を担っています。そして後輪には、地域学校協働活動が位置付けられます。地域学校協働活動とは、地域と学校が連携・協働して行う様々な活動のことです。コミュニティ・スクールでは、前輪の協議会で方向性が決まったものに対して、それを後押しをするように地域と学校が連携して様々な活動を行っていきます。学校の教育活動に対して地域学校協働活動を進めていくことで、この自転車がスムーズに進むようになります。自転車がスムーズに進むようになるときには、今まで以上に学校と地域が連携し、学校を核とした地域づくりにつながっていくはずですが。

地域学校協働活動の例を一つ御紹介いたします。昨年度、吾妻学園では、「ようこそ先輩」という学習において、ゲストティーチャーを地域学校協働活動推進員の方がコーディネートした授業を行いました。このように、地域学校協働活動が活発になると、地域の方々のかかわりが、児童生徒の幅広い視野をもつことにつながります。また、地域の方々とかかわることで、学校で学んでいることが社会でどのように役立っているかを理解することにもつながります。新しいことをやらなくてもよい 運営協議会の中で、何が必要か、何をしていくべきか、地域と学校が熟議し、ともに作り上げていくこと大切です。既存のものをベースに、まずは、「学校理解」「地域理解」から進めていければと思います。

今日お伝えしたいことをまとめます。

- ①つくば市教育大綱では、一人ひとりが幸せな人生を最上位の目標としていること
- ②コミュニティ・スクールは地域とともに子どもを育てる仕組みであること
- ③つくば市のコミュニティ・スクールには4つの機能・役割があること

- ④熟議を通して皆が共有することが大切であるということ  
⑤地域と学校が連携した様々な活動、地域学校協働活動が始まること  
です。

つくばの未来の創り手となる、子どもたちのために御協力をよろしく願っています。

#### 【質疑応答】

田中委員：地域学校協働活動について、推進員がコーディネートするような仕組みと理解した。ただ、本校でも地域で児童生徒の学びに貢献したい人がいる。また、4校それぞれで地域性があり、経緯があり、様々な取組がすでに始まっていると思う。これがゆくゆく学園合同で行なっていくということでのよろしいのか。

村上社会教育主事：新しいことや新しい組織を作るということではなくて、今あるものをベースに、これまでやってきたものを生かして地域学校協働活動につなげていければよいと思う。ただ、このような学校運営協議会の場において、例えばAという活動がありながらも、光輝学園ではこんな児童生徒を育てていきたい、そのためにはこのAという活動はこんなふうアップデートできるかなとか、そんな話合いができると、学園で目指す児童生徒像と照らし合わせながら今あるべき児童生徒について相談し共通理解できるのではないかと思うので、そういった理解をしていただけるとよろしいかと思う。

須藤委員：以前は、人材の把握を学校から通知を出して、人材の収集に当たっていたけれども、今の説明によると、人材の把握は、学校から推進員に移行していくというような捉え方で良いのか。

村上社会教育主事：そういった形が一番理想かとは思いますが、もともと学校がもっているネットワークを生かしていった方が良く思うので、連携を取って進めていければよいと思う。

須藤委員：学校の方が人材把握をするための通知を出すとか適していると思うが。例えば、私に地域の人材を把握してくださいと言われても、地域の方のどなたがそういう専門性があるかを把握するのに限界がある。なぜ、推進員に移行していくのか。

村上社会教育主事：まず、コミュニティ・スクールにおける役割について、確認をさせていただくと、皆様は準備段階の推進会議の構成員である。それとは別に地域と学校をつなぐ「地域学校協働活動推進委員」いわゆる「地域コーディネーター」に活動を、学校と地域と連携してお願いする形になるかと思う。

須藤委員：コーディネーターが選任されて、その方が中心になって人材の把握、講師を依頼していくというような形になるのか。

村上社会教育主事：そういった形を目指しているが、コーディネーターの方に全部お願いするわけではなく、今までも学校と連携していたように推進会議の構成委員の中で、人脈やネットワークとかも使いながら広げてもらい、さらに地域につながっていくというのがコミュニティ・スクールの仕組みである。

須藤委員：実際に活動したときに、コーディネーターと学校が協力して、人材を活用していくというのは難しいのではないかと。コーディネーターがとても大変な活動になっている感じはする。

村上社会教育主事：教員は何年か単位で異動をしてしまう側面があること。地域の方が人材のネットワークをしっかりと把握されていること。そのような側面があるこので、コミュニティ・スクールの仕組みとしては、地域学校協働活動推進員が中心となって人をつないでいき、それに対して、様々な人が協力するような体制を整えていければと思っている。

足立委員：今年度、または来年度の中でそういった視点を大切にしながら、学校がすでにもっているネットワークと、まだもっていないネットワークとの差異をつなげて、この協議会や推進会議の中で考えていければよいかなと思う。

## 5 座長・副座長の選出

座長 → 足立透委員

副座長 → 野口恵実委員

## 6 協議

### (1) 学校運営の基本方針について

#### ① 光輝学園長（四位校長）：学園グランドデザイン（学園要覧）の説明

光輝学園の名前は、平成7年当時、本校で行われていた文化祭・光輝祭に由来している。この文化祭は一人一人が生き生きと輝くと同時に、学校自体も元気に溢れ輝いてほしいという思いを込めて開催された。光輝学園という名称にはその思いが込められている。

その思いを受け、学園目標「未来をひらく力を身につけ、夢に向かって自ら学び一人一人が輝き活躍できる学園」と設定した。

この目標を実現するために光輝学園3小1中が共有しているのが、「目指す児童生徒像」で、9年間を見通して、未来を志向し、夢や希望をもってたくましく生きる児童生徒の育成を目指している

学園内では様々な「小小交流行事」、「小中交流行事」を実施しているが、これらの行事を通して、いかにねらいとしている目指す児童生徒像に近づけるかを考えながら計画し、実行している。

変化の激しい現代社会、今後さらに加速していくことが予想される。現代社会において、学校だけの力では子どもの育成に太刀打ちできない状況である。義務教育の9年間は、子どもたちは地元、地域で育っていく。これからは、今まで以上に学校・保護者・地域の三者が思いを共有し、多くの人たちで関わり育てていく必要がある。

未来を自らの力でひらき、夢に向かって進んでいくための様々な力を身に付けさせたいと考える。

#### ② 葛城小学校（栗山校長）：葛城小学校グランドデザインの説明

本校は、児童数505名、通常学級17、特別支援学級4である。

学校教育目標「夢や希望をもち、心豊かにたくましく生きぬく児童の育成」の下、組織目標として「思いやりの心をもつ『かつらぎっ子』の育成を目指した学級経営の充実」と「自ら学び、考え、生かすことのできる『かつらぎっ子』を育てる学習指導の充実」の2つを掲げている。

これらの目標を達成するために、3本の柱「確かな学力を育む教育の推進のための授業改善」、「豊かな心を育む教育の推進のための学級経営・心の教育の充実」、「健やかな体を育む教育の推進のための保健指導・体育指導の充実」を立て、知徳体それぞれの課題解決に向けて、具体的施策を講じていく。子供たちのよりよい成長のためには、地域や家庭、関係機関のご支援が大変重要だと考えている。これからも、地域とともにある学校を目指して、教育活動に取り組んでいきたい。

#### ③手代木南小学校（江尻校長）：手代木南小学校グランドデザインの説明

本校は、児童数は370名、通常学級13、特別支援学級4である。

手代木南小学校のグランドデザインは、「よりよい未来を築くために人を育てる」という Our Purpose（志）を掲げながら、本年度の教育目標である Our Dream（夢）を「夢をもち未来を創る学校づくり」とした。

「児童一人一人が、夢をもって生活できる学校」「地域の方が、子どもたちの夢を語ることができる学校」「私たち教職員が、夢をもって勤務できる学校」そのような学校づくりを基盤としながら、本年度は、組織目標を「児童にとっての教職員にとっての Well-Being をめざして」とし、重点的な取組の柱として、認知科学に基づいた授業改善、教職員の働きがい重視した「持続可能な学校組織の発展を目指す働き方改革」とした。これらの取組を推進する上で、地域の人材資源等を活用した体験的な学びのさらなる充実や、学校運営の質を高める地域との協働体制の構築などが一層重要になり、その中心となるのが、コミュニティ・スクールとの連携であると考えている。

以上のことを踏まえながら、一人一人が Well-Being を実感し、未来に向かってともに歩むことができる手代木南小学校をつくっていきたいと思う。

#### ④松代小学校（立川校長）：松代小学校グランドデザインの説明

本校は、児童数384名、通常学級12、特別支援学級3である。

学校教育目標は、「豊かな心と創造力にあふれ、たくましく生きる児童の育成」で、経営方針として、「夢・感動にあふれ、地域から信頼される学校づくり」を進めていく。ルールメイキングプロジェクトモデル校の指定を受け、「つながる」「考える」「伸びる」「話し合う」「創り出す」の5つの言葉を大切に学校経営を進めている。

「学びわくわく」においては、「授業で勝負する」という意識のもと、学ぶ楽しさを実感できる授業づくり、探究的な授業づくりに取り組んでいく。

「心ポカポカ」においては、「心の安定基地」となる学級づくりを進めていく。ルールメイキングを有効活用し、納得解を導く力、折り合いをつける力を育てていく。

「身体もりもり」においては、リズムジャンプを活用した体力の向上、栄養

教諭配置の強みを生かし、食に関する指導の充実にも力を入れていきたい。

⑤手代木中学校（四位校長）：手代木中学校グランドデザインの説明

本校は、生徒数 566 名、教職員 40 名（非常勤含むと 53 名）で、通常学級 16、特別支援学級 6 である。また、通級指導教室が 1 開設されている。

今年度テーマに掲げているのは「人が育つ学校」である。生徒・教職員、そして保護者も手中に集うすべての人がこの学校を中心に成長していけることを願っている。

育つ学校を囲んでいる 6 つの力に注目していただきたい。これは昨年度末に教職員が生徒の実態を分析し、その課題から身に付けさせたい力としてピックアップしたものである。

実態を分析する中で、多くの教職員が感じていたことは、課題に対し、じっくり取り組み自分の考えや意見をもつことはできるが、相手に伝えたり表現したりすることが苦手であるということで、特に「コミュニケーション力」を育てていきたい。

目指す学校像にも、尊重し合い・言葉をかけ合い・補い合いなど相手意識をもつことを掲げた。

これらの力を育てていく土台は、保護者・地域・学校であると考えられる。変化の激しいこの時代、学校だけの力で子どもたちを育てていくことは到底できない。この三者が協働しながら、地域に愛される学校でありたい、また、地域を愛する生徒を育てていきたいと思う。

（2）熟議

【ファシリテーター（江尻校長先生）より熟議について説明】

江尻校長：テーマは、「地域や学校での児童・生徒の様子について」である。つくば市の教育大綱でうたわれている「一人一人の幸せ」を軸にして、どういう子どもに育ててほしいのか、各学校の委員の皆様で出し合っていただきたい。

それに対して、現在の児童生徒の様子はどうか、学校での様子、地域での様子から意見を出し合っていただきたい。そして、目指す児童生徒像に近づけるために、現在どのようなことに取り組んでいるのか、さらに、これから学校や地域がどんなことに取り組んでいけばいいのか、「地域の資源」のところに列挙していただきたい。また、目指す姿と現実との差異からどんな手立てが有効なのか、また地域の資源としてどのようなことが活用できるのか、熟議を進めていけたらいい。

テーブルごとに熟議を 20 分程度で進め、熟議が終わったら、テーブルごとに簡単に発表していただきたい。

【各グループで協議されたことの発表】

①手代木中

- ・光輝学園の地域は、「知・徳・体」の部分では、「徳」に課題あり。
- ・人間関係づくりが希薄。

- ・学校では、あいさつする生徒はいる。
- ・学校の様子でも、地域の様子でも、「あいさつ」がキーワード。
- ・元気にあいさつできることが、人間関係づくりでも大事と考える。
- ・相手を思いやる心、コミュニケーション力の育成が大事である。

## ②葛城小

- ・児童の実態として、「体験活動や行事等に一生懸命取り組める」、「下級生に優しい」「異学年で仲良く遊んだり、活動したりすることができる」というよさがある。反面、「あいさつがあまりできない」という課題がある。
- ・地域としては、昔ながらの地域が残りつつ新しい住民が増え、新旧が入り混じった様々な人材がいる。ボランティア活動をしている人材もいる。
- ・様々な人材がいるよさを生かしながら、『チャレンジ』『コミュニケーション』をキーワードとした、これからの社会を生きる上で必要な力を育成できるようにしたい。

## ③手代木南小

- ・子どもには楽しんでほしいし、楽しむことを通して自己肯定感を培ってほしい。
- ・学校での様子は、全体的には、素直で良い子が多いが、良い子であろうと頑張っているところもある。もっと伸び伸びしてもいいと思う。
- ・あいさつは少なかったり、公園で遊んでいる子は限られていたりする。
- ・地域の特性として核家族が多いので、見守りの目が弱いところがある。そのため、何かあったらすぐ学校に連絡するということがある。そういうところをうまくフォローしていけたらいいと思う。

## ④松代小

- ・グランドデザインに書かれている子にプラスして思いやりのある子に育ってほしい。
- ・学校での様子は、素直、集中力が高い、知識がある、タブレットが上手に使えるといった意見が出た。課題は、コミュニケーションスキルや積極性の部分を伸ばしてほしいというところである。
- ・地域資源としては、専門性がある方、コミュニティができている区会もある。また、公園が多く、遊べる環境がある。歩道橋もあるが、歩道が歩きにくい箇所もある。医療関係者や商店が多いという特性もある。
- ・地域の子どもの様子としては、全体としてはあいさつが課題である。一方、比較的規範意識は高い。放課後は、習い事をしている子が多い。下校時は元気いっぱいだが、もう少し元気でもよいのではないかと考える。

(発表のまとめ)

江尻先生：キーワードになってくるのは、あいさつとコミュニケーション。そのあたりがもっと活性化していくと、子どもたちの幸せにつながっていくのか

など。それから、地域の資源がまだまだ埋もれてしまっている。そういう部分もこれからうまく活用していけたらいいのかなという意見が多かったかと思う。今後、学園の活動の中では、出た意見をできるだけ参考にしながら教育活動を進めていけたらと思う。

(3) コミュニティ・スクール推進会議の今後の予定について

本年度、年2回の推進会議を予定している。

次回は、令和7年2月6日(木)14:30から手代木中学校での開催を予定している。

7 閉会

以上をもちまして、令和6年度 第1回 光輝学園コミュニティ・スクール推進会議を閉会いたします。本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございました。今後とも、どうぞよろしく願いいたします。

コミュニティ・スクール協議会(推進会議)に関するアンケート(学園名: ) どちらかに○(地域住民・教職員)

項目	あてはまる部分にチェック(○)を入れてください	あてはまる	どちらかという あてはまる	どちらかという あてはまらない	あてはまらない	判断できない
1	学校運営の基本方針の承認にあたり、協議会委員(推進会議の構成員)による議論を行う					
2	学校運営に関して率直な意見を述べる機会がある					
3	教職員の任用について提案や意見を述べる機会がある					
4	地域住民側からの意見や提案が持ち込まれることがある					
5	子どもの意見を反映させる機会や仕組みがある					
6	協議会(推進会議)内は、忌憚なく意見を出し合える雰囲気がある					
7	学校、家庭、地域全体で育てたい子ども像が共有されている					
8	校長等、教職員の異動に関わらず、継続して議論ができる体制がある					
9	協議会(推進会議)で議論すべき課題の選定、議論の企画段階から関わることもある					
10	学校側の提案事項を承認するだけでなく、より良い学校運営のために建設的に議論することがある					
11	協議会(推進会議)で決定して、実施した取組に対して、振り返りや内省を行う時間がある					
12	協議された事項の実行にあたり、学校長は期待される役割を果たしている					
13	議論の結果、各主体(学校・保護者・地域の大人等)が実行すべきこと・役割分担が明確になっている					
14	学校の問題や悩みは、協議会委員(推進会議の構成員)の中で共有されている					
15	協議会(推進会議)での協議内容について、十分な情報発信が行われている					
16	当事者意識をもち、学校運営に参画したと感ずることができる					
17	協議会(推進会議)への参加回数をご記入ください					回
18	その他 ご意見があればご自由に記入してください(裏面もご使用ください)					